

作品キャプション

《わたしのわからないこと：宇宙編》 2015年

《行方と彼方》 2015年

“認識の果ての空、未知で広大な自然観測”

“わたしたちの背景”をはかること。宇宙は自然領域の延長線上にある。それはふだん認識しえない次元を、どうやって計測していくのかということでもある。

山ノ内町の小学校で行なわれた「わたしのわからないこと：宇宙編」というワークショップは、そこを起点としてはじまる。

眼には見えない背景、空間というものは、どのように認識され、変容し、可視化されてゆくのか——その行方、彼方を追うことが、わたしたちが“移動すること”であり、そのような“距離”をよむことが、スケールをはかることになるのかもしれない。

プロフィール

1969年長野県生まれ。1992年東京造形大学デザイン学科 映像コース卒業。移動と距離、スケールを軸に、絵画から写真、インスタレーションへ展開しながら“見ること”の距離間を描く。おもな活動にコミッションワークとして2008年にオープンした十和田市現代美術館（青森）に《あっちとこっちとそっち》と題した作品をエレベーター内、展示室と展示室の間に点在させる。2013年にオープンしたアーツ前橋（群馬）に《ちいさなおとしもの》含む3点を美術館内外に点在させる。

主な展覧会：2010年「知覚の扉」豊田市美術館及び喜楽亭（愛知）、2011年「風景をつくる」ZELLWEGERPARK（スイス：Uster）、2012年「日常の寓話性」、2013年「糸を分ける」、2015年「-0+」Gallery COEXIST-TOKYO（東京）のキュレーション+展示など。その他、2014年 Art Project「songs of pigeon」在日スイス大使館をはじめ、東京都内、各所の展示に参加。近年では点という対象があって周縁が想起されるように、私たちが物語る背後から、背景に視点—観点を動かし、“私”をフィードバックさせることで、スケール感や奥行きが描かれる、そんな空間の構造を研究している。